

## 接尾辞性字音形態素の前接要素の語彙制限について

On the Lexical Limitations of Preceding Part of Sino-Japanese Suffix

次世代教育学部国際教育学科

呂 建輝

RO, Kenki

Department of International Education

Faculty of Education for Future Generations

**要旨：**近年、接尾辞性字音形態素（用法上、字音接尾辞に準ずる、または近似する字音形態素）に関する研究は多く見られる。しかし、接尾辞性字音形態素にどんな語彙が前接でき、どんな語彙が前接できないのか。これについては未だに明らかになっていない。そこで本稿では、接尾辞性字音形態素の前接部を語種・品詞で分類し、考察した。結論として、接尾辞性字音形態素は和語を前接する場合、その和語は名詞・サ変動詞でなければならない、という制限があることが分かった。接尾辞性字音形態素は漢語との親和性をもち、漢語に最も付きやすい。その波及効果により、漢語と同じような品詞をもつ和語にも付くようになったのだと考えられる。

**Abstract：** Recently, there are many papers focusing on Sino-Japanese suffix. However, what has not been proved is if there is any lexical limitation on the preceding part of Sino-Japanese suffix. In this research, we did an analysis through the preceding parts data of 9 Sino-Japanese suffixes. We found that the preceding part of Sino-Japanese suffix should mainly be a Sino-Japanese word. Besides, a foreign word is also allowed. On the contrary, we cannot use a Japanese native word to Sino-Japanese suffixes, unless it is of equal lexical category to Sino-Japanese word. In fact, when the preceding part of Sino-Japanese suffix is a Japanese native word, it has to be a noun or a suru-verb, but not an adjective or a gerund. From these rules, we can infer that the prototype of Sino-Japanese suffix is to use to a Sino-Japanese word. And it also spreads to cases using to other types of words if their natures are similar to Sino-Japanese words.

**キーワード：** 接尾辞, 字音形態素, 漢語, 語種, 品詞

**Keywords：** suffix, Sino-Japanese morpheme, Sino-Japanese word, word type, lexical category

## 1. はじめに

言語学では、意味をもつ最小の音形を「形態素」とよぶ。「やま（山）」「とり（鳥）」などのように、形態素がそのまま語（単純語）にあたる場合もあるが、「やまーおく（山奥）」「とりーっばい（鳥っばい）」などのように、形態素と形態素の結合により構成される語もある。後者の場合、「やまーおく（山奥）」を構成する形態素「やま（山）」と「おく（奥）」はそれぞれ単独でも語を構成することができるが、これに対して、「とりーっばい（鳥っばい）」を構成する後部形態素「っばい」は単独で語を構成することはできない。野村雅昭 1978は、「単独でも、語を構成することができ、語の中核的な意味を担うもの」を「語基」とし、

「それ自身では、語を構成することができず、つねに他の単位と結合して出現し、形式的な意味を付加するもの」を「接辞」としている。つまり、「やまーおく」は語基と語基による結合、「とりっばい」は語基と接辞による結合でできた、ということになる。

以上の「語基」と「接辞」の定義は、和語の場合に適用できるとしても、漢語の場合となると、必ずしもうまく処理できない例も多く存在する。例えば、「洗濯ー機」の後部要素「機」、または「非常ー時」の後部要素「時」は、確かに単独では語を構成することはできないという観点では接辞に近いと考えられる。一方、意味の面で見ると、形式的な意味（文法的意味）より、「機械」「とき」などといった実質的な意味（語彙の意味）をもっている。この「～機」「～時」など

のような字音形態素は接辞といえるかどうか。これについては、未だに議論が多い。いずれにせよ、「～機」「～時」は、以下2点の基準を満たしているので、少なくとも接辞の性質はもっているといえるのではないだろうか。

- a. 単独では語を構成できないこと
- b. 造語力にとり、多くの語基に前接（接頭辞）または後接（接尾辞）して造語できること

本稿では「～機」「～時」などといったような字音形態素も含め、以上a, bのような、接辞の性質をもつ字音形態素のこと全般を「接辞性字音形態素」とよぶことにする。なお、本研究では後に付くような、接尾辞の性質をもつ字音形態素、つまり「接尾辞性字音形態素」を研究対象とする。

接尾辞性字音形態素に関する研究は、これまで数多く見られる。野村 1978は、接尾辞性字音形態素を含めた接辞性字音語基<sup>1</sup>を意味用法、機能などの面で記述した。また近年、接尾辞的な一字漢語を造語機能の面で二字漢語との比較分析をした中川秀太 2016や、接尾辞性字音形態素を再分類した山下喜代 2018などがある。これらの先行研究から、接尾辞性字音形態素がもつ機能や意味用法、造語力などの問題はある程度明らかになったといえる。しかし、接尾辞性字音形態素は造語力にとりとは言っても、どんな語彙でも前接要素になるわけではない。「～化」「～用」を例に挙げると、「高度化」「短縮化」は言うのに対して、「たか化」「みじか化」は言わない。「買い物用」「塩焼き用」は言うのに対して、「買い物」「焼き用」は言わない。このように、接辞性字音形態素に前接する要素には、

ある種の制限がかかっているのではないかと考えられる。では、どのような要素が前接でき、どのような要素が前接できないのか。本研究の目的は、この問題を明らかにすることである。

## 2. 調査方法

本研究では、野村1978に挙げられている「後部分の接辞性語基」<sup>2</sup>より、接尾辞性字音形態素だと思われるものを抽出し、そのうちの若干例を調査対象とする。接尾辞性字音形態素かどうかの判断基準は、1節で挙げたa, bによる。つまり、単独では語を構成できないこと、および多くの語基に後接して造語できることである。また、野村 1978は「後部分の接辞性語基」を大きく「体言型」「用言型」「相言型」の3種類に分けている。その3種類の間に違いが見られる可能性があるため、「体言型」「用言型」「相言型」がそれぞれ複数例、調査対象に入るように調査対象の選別をした。

以上の方法で、本稿では「～時」「～病」「～機」「～度」「～産」「～化」「～的」「～用」「～式」の9項目を調査対象とする。9項目の接尾辞性字音形態素を「少納言 KOTONOHAMODERN現代日本語書き言葉均衡コーパス」の全ジャンルで検索し、異なる前接要素により、異なり語数が100になるよう、語例収集をした。但し、「仮病」「温度」などのような二字漢語は、「接辞性字音形態素」としての判定が難しいため、除外した。

以上の方法で集められた語例は以下〈表1〉のとおりである。

〈表1〉語例一覧

|        |           |          |        |       |            |       |           |         |     |     |     |     |
|--------|-----------|----------|--------|-------|------------|-------|-----------|---------|-----|-----|-----|-----|
| く<br>時 | 移動時       | 引退時      | 雨天時    | 開始時   | 外出時        | 火災時   | 加速時       | 帰宅時     | 起動時 | 起立時 | 休憩時 | 休戦時 |
|        | 急病時       | 強風時      | 緊急時    | 空腹時   | 契約時        | 更新時   | 故障時       | 混雑時     | 災害時 | 最盛時 | 採用時 | 作成時 |
|        | 撮影時       | 事故時      | 地震時    | 質問時   | 始動時        | 死亡時   | 就職時       | 就寝時     | 渋滞時 | 終了時 | 取材時 | 手術時 |
|        | 出所時       | 取得時      | 償還時    | 使用時   | 乗車時        | 食事時   | 申告時       | 炊飯時     | 清掃時 | 送信時 | 退院時 | 退職時 |
|        | 昼食時       | 注入時      | 注文時    | 直進時   | 通勤時        | 通常時   | 停車時       | 投球時     | 到着時 | 入院時 | 入学時 | 入庫時 |
|        | 入場時       | 入所時      | 入浴時    | 配達時   | 発進時        | 発送時   | 非常時       | 必要時     | 変更時 | 保存時 | 面接時 | 来店時 |
|        | 来日時       | 離乳時      | 会社設立時  | 救急要請時 | 契約締結時      | 作品搬入時 | 新車購入時     | 申請書提出時  |     |     |     |     |
|        | 第二次大戦時    | アイドリング時  | オープン時  | デビュー時 | ピーク時       | プリント時 | ラッシュ時     |         |     |     |     |     |
|        | ログアウト時    | 受付時      | 受取時    | 入替時   | 切りかえ時      | 申込時   | 西カメルーン独立時 | イベント開催時 |     |     |     |     |
|        | ベルリンの壁崩壊時 | レントゲン検査時 | マシン搭載時 | 円高不況時 | 激しい精神運動興奮時 |       |           |         |     |     |     |     |
|        |           |          |        |       |            |       |           |         |     |     |     |     |
|        |           |          |        |       |            |       |           |         |     |     |     |     |
|        |           |          |        |       |            |       |           |         |     |     |     |     |
|        |           |          |        |       |            |       |           |         |     |     |     |     |

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 病 | <p>胃腸病 遺伝病 黄熱病 鸚鵡病 害虫病 肝臓病 狂犬病 血管病 原子病 公害病 高山病 五月病<br/> 黒点病 国民病 殺人病 小児病 歯周病 職業病 神経病 紫斑病 心臓病 腎臓病 睡眠病 精神病<br/> 成人病 潜水病 躁鬱病 炭疽病 伝染病 転覆病 糖尿病 日射病 白点病 皮膚病 風土病 婦人病<br/> 舞踏病 分裂病 慢性病 紋羽病 流行病 冷水病 冷房病 老人病 大企業病 日本人病 生活習慣病<br/> 精神分裂病 アバタイト病 アルツハイマー病 イギリス病 エロモナス病 ウイルス病 ウイルソン病<br/> カラムナリス病 クロウン病 KHV 病 シメオン病 シュードモナス病 ストレス病 スライス病<br/> パーキンソン病 バセドウ病 ハンセン病 プリオン病 Paget 病 Bowen 病 ホジキン病<br/> メニエール病 モザイク病 ヤコブ病 川崎病 川野病 さび病 白絹病 つつがむし病 怠け病<br/> 橋本病 ぶら下がり病 ぶらぶら病 ぼっくり病 水俣病 もやもや病 うどん粉病 イタイイタイ病<br/> 増車したい病 出掛けたい病 シンセ欲しい病 私も知りたい病 壊血病 狂牛病 血友病 膠原病<br/> 黒死病 軟腐病 熱射病 白血病 夢遊病 手足口病 ベと病</p> |
| 機 | <p>圧縮機 1号機 映写機 改札機 貨物機 韓国機 乾燥機 給水機 軍用機 警戒機 計算機 航空機<br/> 最新機 裁断機 撮影機 試作機 室外機 実用機 射出機 写真機 遮断機 受信機 受像機 上位機<br/> 昇降機 浄水機 新鋭機 信号機 水圧機 清算機 製粉機 製本機 洗濯機 戦闘機 掃除機 大韓機<br/> 大衆機 代替機 脱水機 探測機 暖房機 端末機 中古機 通信機 通話機 電話機 特攻機 入門機<br/> 爆撃機 発信機 発電機 販売機 汎用機 飛行機 複合機 複写機 変速機 紡績機 無線機 優秀機<br/> 輸送機 溶接機 予備機 旅客機 録音機 自衛隊機 自家用機 遠心分離機 金属探知機 空気清浄機<br/> 国籍不明機 自動交付機 自動販売機 政府専用機 人工降雪機 放射能測定器 ゲーム機 コピー機<br/> ジェット機 チャーター機 デモ機 パスタ機 プレス機 マッサージ機 mova 機 ATM 機 大型機<br/> 刈払い機 草刈機 小型機 読み取り機 新型機 モニター切り替え機 A3 対応機 データ処理機<br/> DCS 型機 XFY-1 型ボゴ機 6~8t 機 扇風機 蓄音機</p>                                          |
| 度 | <p>悪性度 安全度 安定度 依存度 印象度 影響度 解像度 開放度 確信度 加速度 活動度 活用度<br/> 感謝度 関心度 完成度 甘味度 危険度 期待度 寄与度 許容度 緊急度 群生度 喧嘩度 健脚度<br/> 健康度 健全度 硬化度 好感度 貢献度 再現度 酸性度 充実度 重症度 充足度 従属度 集中度<br/> 自由度 重要度 熟知度 熟練度 上達度 自立度 深刻度 真摯度 信用度 信頼度 遂行度 精細度<br/> 精通度 精密度 操業度 増幅度 達成度 知名度 通気度 徹底度 統合度 透明度 特異度 難易度<br/> 人気度 認知度 燃焼度 波及度 必要度 肥満度 普及度 満足度 魅力度 明瞭度 有意度 優遇度<br/> 優先度 溶解度 理解度 利用度 露出度 塩基性度 不透明度 不平等度 有意味度 要介護度<br/> アクシデント度 アルカリ度 アルコール度 アレンジ度 ストレス度 マニア度 ラッキー度<br/> グミグミ度 浮気度 おしゃべり度 関わり度 着回し度 華やか度 まめ度 モテ女度 別れ度<br/> ベッドタウン型都市度 深達度</p>                                                                       |
| 化 | <p>安定化 一本化 映画化 液剤化 液状化 円滑化 延命化 温暖化 過疎化 活性化 活発化 官営化<br/> 乾燥化 簡素化 簡便化 機械化 義務化 近代化 空洞化 形骸化 結晶化 懸案化 厳格化 現金化<br/> 健全化 高層化 高度化 公有化 合理化 効率化 高齢化 国有化 固形化 個性化 孤立化 最大化<br/> 差別化 視覚化 磁石化 実用化 自動化 私物化 自由化 重症化 商業化 常態化 商品化 商用化<br/> 書籍化 序列化 深刻化 図案化 正常化 正当化 制度化 製品化 先鋭化 全国化 専門化 大衆化<br/> 耐震化 短縮化 単純化 短命化 地中化 長期化 陳腐化 定番化 東京化 独裁化 都市化 内戦化<br/> 日常化 燃料化 白紙化 晩婚化 粉末化 暴徒化 民営化 民主化 無償化 無料化 明確化 有料化<br/> 予算化 量産化 老朽化 矮小化 大規模化 付属校化 社会問題化 有名無実化 アニメ化 LED化<br/> キャンパスタウン化 グローバル化 パロディー化 ブランド化 プロ化 大型化</p>                                                                                           |

|   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 産 | <p>愛知産 欧州産 温帯産 海外産 外国産 九州産 京都産 現地産 県内産 国内産 豪州産 自国産<br/> 支那産 台湾産 淡水産 地方産 中国産 南海産 南米産 日本産 熱帯産 米国産 北陸産 北方産<br/> 本州産 北海道産 甲賀市産 兵庫県産 琵琶湖産 平成 20 年産 アカシア産 アフリカ産<br/> アメリカ産 イスラエル産 イタリア産 インド産 インドネシア産 エッセン産 オーストラリア産<br/> オランダ産 ガーナ産 カナダ産 スイス産 スペイン産 タスマニア産 チリ産 ドイツ産 トリノ産<br/> ナジド産 ナント産 ノルウェー産 ハンガリー産 ブラジル産 フランス産 ブルターニュ産<br/> ベネズエラ産 ベルギー産 マレーシア産 メキシコ産 モロッコ産 青森産 茨城産 宇治産 牛深産<br/> 魚沼産 愛媛産 大洗産 岡山産 沖縄産 上山産 川口産 川西産 熊本産 相良産 信楽産 静岡産<br/> 高岡産 高松産 館林産 所沢産 鳥取産 長崎産 根室産 練馬産 日高産 弘前産 安曇野産<br/> 江戸川産 越喜来産 鹿児島産 十日町産 屋久島産 地場産 地元産 岩手県産 新篠津産 駿河湾産<br/> 新潟県産 浜名湖産 南アジア産</p> |
| 的 | <p>圧倒的 意識的 一時的 一般的 一方的 遺传的 意図的 意欲的 印象的 音楽的 科学的 官僚的<br/> 技術的 奇跡的 基本的 驚異的 近代的 経済的 結果的 決定的 現実的 幻想的 現代的 限定的<br/> 好意的 効果的 攻撃的 恒常的 構造的 肯定的 国民的 個人的 個性的 古典的 根本的 最終的<br/> 財政的 実験的 実質的 持続的 自動的 社会的 集团的 集中的 重点的 守備的 衝撃的 象徴的<br/> 将来的 身体的 人道的 進歩的 政治的 世界的 絶望的 先進的 全体的 専門的 戦略的 総合的<br/> 組織的 対照的 代表的 段階的 中国的 中立的 直接的 定期的 徹底的 特徴的 日常的 日本的<br/> 人間的 能力的 爆発的 比較的 悲劇的 否定的 批判的 表面的 普遍的 文化的 平均的 平和的<br/> 暴力的 保守的 本質的 慢性的 魅力的 民主的 優先的 流動的 歴史的 言語学的 第三者的<br/> 地政学的 80 年代的 アンタッチャブル的 SF 的 小泉的</p>                                                                                   |
| 用 | <p>愛玩用 医療用 印刷用 園芸用 屋外用 屋内用 会議用 加工用 家庭用 観光用 観賞用 機械用<br/> 吸引用 救助用 救命用 給料用 教育用 競泳用 競技用 業務用 緊急用 軍服用 訓練用 警備用<br/> 見学用 検査用 公開用 工事用 娯楽用 参拝用 実験用 住宅用 充電用 手術用 出荷用 商業用<br/> 上陸用 食器用 侵入用 生食用 製造用 整備用 世帯用 洗濯用 洗面用 打撃用 昼食用 治療用<br/> 偵察用 凍結用 日本用 農業用 配送用 伐採用 発電用 晩酌用 繁殖用 搬送用 非常用 備蓄用<br/> 避難用 返信用 防衛用 防火用 防犯用 補強用 保健用 輸出用 養殖用 飲料水用 緊急時用<br/> 見学者用 従業員用 障害者用 低速車用 図書館用 保護者用 コンクール用 スポーツ用<br/> スマートフォン用 スマホ用 ディナー用 トイレ用 バレリーナ用 ポスター用 リサイクル用<br/> 大人用 買い物用 着替え用 子供用 沢登り用 塩焼き用 一人暮らし用 部屋履き用 街歩き用<br/> みやげ用 目隠し用 焼肉用 試合用 ワイン樽用</p>                                               |
| 式 | <p>行灯式 一般式 英語式 円卓式 加除式 火薬式 駆動式 現地式 光学式 冊子式 車軸式 充電式<br/> 手動式 伸縮式 水銀式 西洋式 選択式 ソ連式 対照式 耐水式 中国式 朝鮮式 電子式 日本式<br/> 認証式 名鉄式 油圧式 98 年式 屯田兵式 一刀両断式 家庭料理式 重油燃焼式 3 人連記式<br/> ABO 式 エアゾール式 カートリッジ式 カセット式 タイムテーブル式 フランス語式 フランス式<br/> ベンチ式 ボール式 ポンプ式 メーカーケーブル式 芋づる式 多田式 桶谷式 折紙式 折り畳み式<br/> 株式 讃岐式 積立式 豊田式 枚方式 耳式 押しボタン式 ねずみ算式 油圧コントロール式<br/> 開会式 開所式 歓迎式 起工式 銀婚式 結婚式 結成式 告別式 始業式 終業式 就任式 授賞式<br/> 授与式 上棟式 署名式 成人式 洗礼式 壮行式 創立式 卒園式 卒業式 着任式 追悼式 点灯式<br/> 入学式 表彰式 閉会式 落成式 礼拝式 鍬入れ式 出初式 渡り初め式 始球式<br/> 回帰式 関係式 計算式 構造式 条件式 多項式 2 次式 方程式 化学反応式</p>                               |

### 3. 語例の分類および考察

2 節の調査方法で集めた語例を、接尾辞性字音形態素の前後要素によって分類する。ただし、「～式」の

語例には「形式・方式」「行事・儀式」「理系の数式など」の 3 つ用法がみられるため、全 100 例のほか、そのうち相言類に相当する「形式・方式」の用法で用いられる 58 例を参考に別項に挙げる。

### 3.1 前接要素の語種による分類

まず、前接要素を語種によって分類する。語種は基本的に漢語、外来語、和語、混種語の4項に分ける。語例には、以下3種類の前接要素が見られる。

- ① 語単位の要素が前接する場合。  
例：移動-時，胃腸-病など。
- ② 非自立要素が前接する場合。  
例：壊血-病，べと-病など。

- ③ 句もしくは文に相当する要素が前接する場合。  
例：激しい精神運動興奮-時，私も知りた  
い-病など。

そのうち、①②の場合は、自立要素かどうかに関係なく、前接要素の語種で判断する。③の場合は「その他」の項目に入れる。

以上の方法で、前接要素の語種別に分類すると、以下〈表2〉のようになる。

〈表2〉接尾辞性字音形態素の前接要素の語種

| 前接要素                   | 漢語 | 外来語 | 和語 | 混種語 | その他 |
|------------------------|----|-----|----|-----|-----|
| ～時                     | 81 | 7   | 5  | 6   | 1   |
| ～病                     | 57 | 23  | 14 | 1   | 5   |
| ～機                     | 78 | 10  | 5  | 6   | 1   |
| ～度                     | 83 | 8   | 8  | 1   | 0   |
| ～化                     | 92 | 7   | 1  | 0   | 0   |
| ～産                     | 30 | 30  | 32 | 8   | 0   |
| ～的                     | 97 | 2   | 1  | 0   | 0   |
| ～用                     | 77 | 9   | 12 | 2   | 0   |
| ～式                     | 72 | 11  | 14 | 3   | 0   |
| ～式 <small>(形式)</small> | 33 | 11  | 11 | 3   | 0   |

〈表2〉から、漢語前接の例が圧倒的に多いことが分かる。漢語につづき、外来語前接・和語前接の例もある程度確認できる。「～産」のように、漢語前接の数値も外来語前接の数値も和語前接の数値もほとんど変わらない場合もある。

漢語に付きやすいのは、接尾辞性字音形態素はもとも漢語との親和性をもっているからだと考えられる。しかし漢語だけでなく、外来語・和語にも付くことには興味深い。以下3.2で、以上9つの接尾辞性字音形態素の前接要素を、品詞別で分けてみる。

### 3.2 前接要素の品詞による分類

次に、前接要素の品詞で分類する。品詞は基本的に名詞、動詞、形容詞に分け、さらに動詞は下位分類として「サ変」と「その他」に分け、形容詞は「ナ形容詞」と「イ形容詞」に分ける。二つ以上の品詞を兼ねる場合は、基本的に使用頻度の高い方の項目に入れるが、判断が難しい場合は、以下のように処理した。

- ア。「名詞」と「サ変動詞」を兼ねる場合は、「サ

変動詞」の項目に入れる。例：外出-時，終了-時など。

- イ。「名詞」と「ナ形容詞」を兼ねる場合は、「ナ形容詞」の項目に入れる。例：大規模-化（大規模な～，大規模の～）など。
- ウ。動詞で「サ変」と「その他」を兼ねる場合は、「サ変」の項目に入れる。例：受付-時（受付する，受け付ける）など。
- エ。「サ変」動詞にならず、「名詞」と「その他」動詞を兼ねる場合は、「名詞」の項目に入れる。例：受取-時（受け取り，受け取る）など。

その他、3.1で挙げた「②非自立要素が前接する場合は、前接要素の品詞性の判断に無理があるため、別項として「非自立成分」の欄に入れる。また「③句もしくは文に相当する要素が前接する場合」も、別項として「句・文」の欄に入れる。

以上の方法で、接尾辞性字音形態素の前接要素を品詞性で分類すると、以下〈表3〉のようになる。

〈表3〉接尾辞性字音形態素の前接要素の品詞

| 前接要素               | 名詞  | 動詞 |     | 形容詞  |      | 非自立成分 | 句・文 |
|--------------------|-----|----|-----|------|------|-------|-----|
|                    |     | サ変 | その他 | ナ形容詞 | イ形容詞 |       |     |
| ～時                 | 31  | 65 | 0   | 3    | 0    | 0     | 1   |
| ～病                 | 75  | 9  | 0   | 0    | 0    | 11    | 5   |
| ～機                 | 51  | 45 | 0   | 1    | 0    | 2     | 1   |
| ～度                 | 29  | 47 | 0   | 23   | 0    | 1     | 0   |
| ～化                 | 72  | 9  | 0   | 19   | 0    | 0     | 0   |
| ～産                 | 100 | 0  | 0   | 0    | 0    | 0     | 0   |
| ～的                 | 72  | 27 | 0   | 1    | 0    | 0     | 0   |
| ～用                 | 53  | 45 | 0   | 2    | 0    | 0     | 0   |
| ～式                 | 66  | 33 | 0   | 0    | 0    | 1     | 0   |
| ～式 <sub>(形式)</sub> | 52  | 6  | 0   | 0    | 0    | 0     | 0   |

〈表3〉から、「名詞」「動詞：サ変」の欄は圧倒的に高い数値を示しており、接尾辞性字音形態素は名詞・サ変動詞に最も付きやすいことが分かる。

一方、「動詞：その他」と「イ形容詞」が前接する要素はない、という現象も観察される。

「動詞：その他」は主に動詞連用形のことを指しているが、この類の語例は全くなかったわけではない。ただ、前述したように、語例の処理として「ウ、動詞で「サ変動詞」と「その他」を兼ねる場合は、「サ変動詞」の項目に入れ」ている。そのため、前接要素が動詞連用形で、もともとの動詞形をもち、かつサ変動詞にもなる「受付-時」「着替え-用」「積立-式」という3例は、「動詞・その他」ではなく「動詞：サ変」に分類している。また、「エ、「サ変動詞」にならず、「名詞」と「その他」動詞を兼ねる場合は、「名詞」の項目に入れ」ている。そのため、前部要素が動詞連用形で、単独で名詞として使え、かつ同時に動詞形ももつ下掲13例の場合は、「動詞：その他」ではなく「名詞」に分類している。

受取時 入替時 切りかえ時 申込時 さび病  
怠け病 ぶら下がり病 刈払い機 読み取り機  
関わり度 着回し度 別れ度 折り畳み式

このように分類して「動詞：その他」の語例数が0になるということは、動詞連用形はサ変動詞・名詞のいずれかの形をもたないと、接尾辞性字音形態素に前接できない、ということになる。前述したように「接尾辞性字音形態素は名詞・サ変動詞に最も付きやすい」ことも併せて考えると、つまり、動詞連用形に接尾辞性字音形態素が付くとき、その動詞連用形は名詞またはサ変動詞として扱われているのだと考えられる。

また、「イ形容詞」は前接しないのに対して、「ナ形容詞」は前接することがある。その理由について、〈表3〉では分からない。したがってここで、前接要素を語種によって分類した〈表2〉のデータと品詞によって分類した〈表3〉のデータをあわせて、以下〈表4〉にまとめる。

〈表4〉接尾辞性字音形態素の前接要素の語種と品詞

| 前接要素               | 漢語 |      |      | 外来語 |      |      | 和語 |      |       |      |      | 混種語 |      |       |      |      | 非自立成分 |     |    | 句・文 |   |
|--------------------|----|------|------|-----|------|------|----|------|-------|------|------|-----|------|-------|------|------|-------|-----|----|-----|---|
|                    | 名詞 | サ変動詞 | ナ形容詞 | 名詞  | サ変動詞 | ナ形容詞 | 名詞 | サ変動詞 | その他動詞 | ナ形容詞 | イ形容詞 | 名詞  | サ変動詞 | その他動詞 | ナ形容詞 | イ形容詞 | 漢語    | 外来語 | 和語 |     |   |
| ～時                 | 18 | 60   | 3    | 3   | 4    | 0    | 4  | 1    | 0     | 0    | 0    | 6   | 0    | 0     | 0    | 0    | 0     | 0   | 0  | 0   | 1 |
| ～病                 | 41 | 7    | 0    | 23  | 0    | 0    | 10 | 2    | 0     | 0    | 0    | 1   | 0    | 0     | 0    | 0    | 9     | 0   | 2  | 5   |   |
| ～機                 | 34 | 41   | 1    | 6   | 4    | 0    | 5  | 0    | 0     | 0    | 0    | 6   | 0    | 0     | 0    | 0    | 2     | 0   | 0  | 1   |   |
| ～度                 | 18 | 44   | 20   | 5   | 1    | 1    | 5  | 2    | 0     | 2    | 0    | 1   | 0    | 0     | 0    | 0    | 1     | 0   | 0  | 0   |   |
| ～化                 | 65 | 9    | 18   | 6   | 0    | 1    | 1  | 0    | 0     | 0    | 0    | 0   | 0    | 0     | 0    | 0    | 0     | 0   | 0  | 0   |   |
| ～産                 | 30 | 0    | 0    | 30  | 0    | 0    | 32 | 0    | 0     | 0    | 0    | 8   | 0    | 0     | 0    | 0    | 0     | 0   | 0  | 0   |   |
| ～的                 | 69 | 27   | 1    | 2   | 0    | 0    | 1  | 0    | 0     | 0    | 0    | 0   | 0    | 0     | 0    | 0    | 0     | 0   | 0  | 0   |   |
| ～用                 | 35 | 40   | 2    | 8   | 1    | 0    | 10 | 2    | 0     | 0    | 0    | 1   | 1    | 0     | 0    | 0    | 0     | 0   | 0  | 0   |   |
| ～式                 | 39 | 32   | 0    | 11  | 0    | 0    | 13 | 1    | 0     | 0    | 0    | 3   | 0    | 0     | 0    | 0    | 1     | 0   | 0  | 0   |   |
| ～式 <sub>(形式)</sub> | 28 | 5    | 0    | 11  | 0    | 0    | 10 | 1    | 0     | 0    | 0    | 3   | 0    | 0     | 0    | 0    | 0     | 0   | 0  | 0   |   |

〈表4〉から分かるように、「ナ形容詞」が前接している語例のほとんどは、前接要素が漢語の場合と外来語の場合に集中しているのである。前接要素が和語ナ形容詞の場合は「華やか度」「まめ度」の2例しかなく、しかも2例とも「～度」の語例である。「～度」は程度を表す接尾辞性字音形態素である。どれぐらい「華やか」か、どれぐらい「まめ」か、その程度を表すために「～度」が使われていると思われる。同じく程度を表す接尾辞「～さ」と似たような働きをしているため、程度を表す形容詞の前接が必要になってくるのだと思われる。その結果、〈表4〉から分かるように、「～度」は漢語ナ形容詞が前接している場合も、語例数が他の接尾辞性字音形態素に比べ、多めである。このような特殊な用法から、和語前接の場合も一部、ナ形容詞の前接が許容されたのではないだろうか。

〈表4〉からもう一つ、前接要素が非自立成分の場合、その前接要素はほとんど漢語に相当する成分であることが分かる。前接要素が和語に相当する成分の例は「手足口病」「べと病」の2例あり、いずれも「～病」の語例である。「～病」には、句または文に相当する要素が前接する用法をもち、本研究の調査で100例中の5例がその用法にあたる。その5例は以下のと

おりである。

イタイイタイ病 増車したい病  
出掛けたい～い病 シンセ欲しい病  
私も知りたい病

「イタイイタイ病」という病名は、患者がよく「痛い痛い」と言うことからできたものである。「増車したい病」「出掛けたい～い病」「シンセ欲しい病」「私も知りたい病」は、「増車したい」「出掛けたい」「シンセがほしい」「私も知りたい」という心理状態に陥っていること表す。この5例の「～病」の前接要素は、いずれも病気または病んでいる心理状態の発症時の特徴を表している。

同じように、前接要素が和語非自立成分の「手足口病」は「手、足、口に発疹ができる」というのが発症時の特徴であるため、「手足口」に「～病」が付いてできたのだろう。「べと病」は「べとついた感じになる」というのが発症時の特徴であるため、「べと」に「～病」が付いてできたのだろう。このように、「～病」は、発症時の特徴を表す要素が前接するとき、その要素は必ず語単位のものでなくてもいいという特異性から、和語非自立成分が前接する「手足口病」「べ

と病」ができたのではないと思われる。

以上を整理すると、接尾辞性字音形態素は基本的に漢語に付きやすいといえよう。前接要素が外来語の場合はそれに次ぐ。前接要素が和語の場合は、基本的に名詞・サ変動詞にしか接尾辞性字音形態素は付かない。この現象は、「体言型」の「～時」「～病」「～機」「～度」にも、「用言型」の「～化」「～産」にも、「相言型」の「～的」「～用」「～式(形式)」にもみられるものである。「～式」についても、「相言型」のみの58例と全100例の状況と、ほぼ同じである。

何故、接尾辞性字音形態素の前接要素に上述のような語彙制限があるのだろうか。

### 3.3 前接要素に語彙制限がある要因

3.1で述べたように、接尾辞性字音形態素は漢語との親和性をもっているため、漢語に最も付きやすい。漢語は、語形変化を伴わない性質を持っているため、品詞上、基本的に名詞、サ変動詞、ナ形容詞しかない<sup>3</sup>。これに倣うように、和語・外来語などが前接する場合も、その前接要素は品詞上、基本的に名詞、サ変動詞、ナ形容詞に限られているのであろう。名詞・サ変動詞にならない動詞連用形、またはイ形容詞

などは不適格となる。

外来語は、品詞上、基本的に名詞、サ変動詞、ナ形容詞しかないという点で、漢語と似ているような性質をもっている。そのため、外来語前接の場合も、基本的に漢語前接の場合と同じような傾向を現わしているのだろう。ただ、〈表4〉から分かるように、外来語前接の場合の語例は漢語前接の場合ほど多くない。それは、外来語は基本的に外来語との相性が最もよく、漢語との相性はそれに次ぐからではないか。「パソコン能力」よりも「パソコンスキル」のほうが多く使われ、「ダブル予約」よりも「ダブルブッキング」のほうが多く使われるのも、そのためだろう。

一方、前接要素は名詞、サ変動詞、ナ形容詞に限られるとは言っても、本稿の調査では実際、和語ナ形容詞が前接する語例はほとんど確認できなかった。これには、漢語・外来語と和語との、造語機能上の差が関係していると考えられる。以下〈表5〉で示すように、名詞・サ変動詞の多くの場合は、漢語でも和語でも外来語でも、他の漢語に前接して語を作ることができる。しかしナ形容詞の場合となると、漢語・外来語の多くは漢語に前接して語を作ることができるが、和語はほとんどできない。

〈表5〉漢語に前接するときの造語機能の比較

|      |     |                   |                 |
|------|-----|-------------------|-----------------|
| 名詞   | 漢語  | 学生支援、学生情報など       | 状況確認、状況変化など     |
|      | 外来語 | リスク分析、リスク回避など     | ポイント計算、ポイント進呈など |
|      | 和語  | 株初心者、株売買など        | 売上比率、売上総額など     |
| サ変動詞 | 漢語  | 申請書類、申請期限など       | 販売価格、販売計画など     |
|      | 外来語 | キャンセル料金、キャンセル依頼など | コピー商品、コピー制限など   |
|      | 和語  | 取引価格、取引条件など       | 割引表示、割引対象など     |
| ナ形容詞 | 漢語  | 優秀選手、優秀作品など       | 安全運転、安全確認など     |
|      | 外来語 | グローバル人材、グローバル経済など | ヘルシー料理、ヘルシー志向など |
|      | 和語  | 確か～(?)            | 嫌い～(?)          |

和語ナ形容詞はもともと、漢語に前接して使う用法をほとんどもっていない。そのため、同じく漢語成分である接尾辞性字音形態素にも基本的に前接できないのだと考えられる。ただ、なぜ和語ナ形容詞は漢語に前接して使う用法をもたないのかについては、現段階では不明である。これを、また今後において明らかにしていく必要がある。

## 4. まとめ

本稿では、接尾辞性字音形態素の前接要素の語彙制限について、前接要素の語種と品詞の面から調査し、分析した。その結論は以下のようにまとめられる。

接尾辞性字音形態素は漢語に最も付きやすい。外来語・和語に付く場合はそれに次ぐ。但し、接尾辞性字音形態素が和語に付く場合、その和語は基本的に名詞・サ変動詞に限られる。名詞・サ変動詞にならない

動詞連用形、または形容詞には付かない。このような語彙制限があるのは、接辞性字音形態素はもともと漢語との親和性をもっていて、その波及効果により、外来語および和語に及んだ結果だと考える。

#### 注

- <sup>1</sup> 野村雅昭 1978は「意味の面からは、語基とみなすのが適当である」ことから、字音形態素のことを幅広く字音語基としている。「～客」「～券」などのように単独で語を構成できる字音形態素も、接辞の性質をもっているため、接辞性字音語基としている。一方で、本稿でいう「接辞性字音形態素」は「a. 単独では語を構成できないこと」を判断基準の一つとしている。そのため、「～客」「～券」は「接辞性字音形態素」のカテゴリーには入らない。つまり、本稿でいう「接辞性字音形態素」は、野村雅昭 1978が定義した「接辞性字音語基」の下位分類の一つになると考える。
- <sup>2</sup> 野村 1978では、他成分の後部に接続して使う字音形態素のことを指している。本稿で言う接尾辞性字音形態素以外、「～客」「～券」などのように単独で語を構成できる字音形態素も該当する。
- <sup>3</sup> ただし、「事故る」などのように、少数の例外もある。

#### 参考文献

- 阪倉篤義 1986「接辞とは」『日本語学』5-3
- 中川秀太 2016「接尾辞的な一字漢語と類義の二字漢語における造語機能の比較」『レキシコンフォーラム』7 ひつじ書房
- 野村雅昭 1978「接辞性字音語基の性格」『電子計算機による国語研究IX』国立国語研究所報告61
- 山下喜代 2018「字音形態素のカテゴリー化－接辞を中心にして－」『青山語文』48
- 呂建輝 2014「漢語連濁の史的変遷－後部要素が「産」の漢語について－」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』37
- 呂建輝 2015「漢語連濁の通時的考察と接尾辞化－「～勢」の場合－」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』40

#### 参考URL

- 「少納言 KOTONOHA現代日本語書き言葉均衡コーパス」国立国語研究所